

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0172000259), 法人名 (三愛商事株式会社), 事業所名 (グループホーム 里の家 (すずらん)), 所在地 (北海道小樽市桂岡町11番13号), 自己評価作成日 (令和元年12月10日), 評価結果市町村受理日 (令和2年2月20日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は地域密着型サービスの意義を理解し、入居されている方々が認知に障害があっても適切な介護を受ける事によって穏やかな生活ができる事を目標にしています。地域の中で長く生活されてきた方々が地域と繋がり、それまでの生活と環境を大切に...

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JieyosyoCd=0172000259-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和2年1月20日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は銭函駅からほど近い閑静で落ち着いた雰囲気のある住宅街に位置している。2階建て、一部一階建ての建物で、3ユニットである。広い庭園には栗などの木が植えられ、菜園では野菜の収穫を楽しむことができる。...

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に密着した理念を事業所で作成し、毎朝唱和している。研修などで理念について話し合う機会があり、実践につなげている。	理念は、玄関やパンフレットに明示し、職員は毎朝唱和している。理念について研修話し合い、職員全員が共有して日々の介護に繋げるように取り組んでいる。	理念は新人職員にもしっかり受け継がれるように研修を行い、介護の実践に繋げるように行っているため期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様が地域の方々と繋がりが持てる様、様々な活動(小学校行事への参加、地域の方々が定期的にボランティアとして来設、里の家祭り等)を行っている。外出時には地域の方々と気軽に挨拶できている。	町内会や小学校との交流があり、行事には必ず招待されている。種々の地域ボランティアの訪問活動があり、事業所主催の「里の家祭り」には多数の近隣の人々が参加し盛況である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会は支援の方法や支援関係の利用方法等を紹介している。交流に来られた際に、支援に方法を見学していただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にはご家族様、町内会、地域包括、市役所、事業所の方々が参加され、行事や避難訓練等の報告を画像を用い、行っている。意見の交換を行い、より良いサービスが提供できる様体制を築いている。	会議は定例に開催され、地域包括支援センター、市役所職員、町内会役員、家族が参加している。運営、行事、生活状況、避難訓練、ヒヤリハットなど、スライドを活用して報告し、意見交換を行い、意見は運営に反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設長が市役所、関係機関を訪問、入居者様に関する諸手続きを行ない、日頃から連絡を取っている。里の家便りや運営推進会議議事録等で、取り組みを伝え、協力関係を築いている。折に触れてアドバイス等をいただいている。	行政担当課には、直接出向き、必要書類を提出し、運営推進会議録や「里の家だより」を届け運営状況を報告している。折に触れて相談しアドバイスを受けるなど協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置、入職した職員に身体拘束に関する研修を行い、早い段階で身体拘束に関する知識を得るようにしている。内部研修においては勤務年数が長い職員には内部研修を行い、虐待に関する話し合いを行っている。虐待が起こさない取り組みをしている。	「身体拘束廃止委員会」を設置し、3か月に1回開催し議事録をとり職員全員の確認をとっている。内部研修は年2回実施し、指針やマニュアルを整備している。新人職員も身体拘束に関する知識を得るように、日頃の介護サービスの中で共に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	スタッフは虐待防止についての研修を受けている。普段からスタッフ同士、事例などを基に虐待について話し合っている。また、お互いに疑問を持ち、注意しあえる関係を築き、職員にはストレスが生じない様配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を用いている入居者様が数名いる。後見人に状況の説明を行い、入居者様が自らの権利を守る事ができる様、体制作りを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の面談にて施設長を中心に不安や疑問点をゆっくり伺い、理解と納得をいただいている。重要事項の改正には書面での説明と電話等で詳しく説明し、納得いただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族様が意見、要望を施設長、スタッフに伝える環境や雰囲気を整えている。本社にも速やかに報告し、対応している。外部への苦情窓口の案内を行っている。	運営推進会議への家族参加や、日頃の面談で意見を聞き、利用者や家族の意見は運営に反映させている。毎月、「里の家だより」を送付し生活状況を報せ、外部への苦情窓口機関を案内している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や施設長はユニット会議やリーダー会議、本社での合同会議にて意見を伝えている。その他、いつでも施設長に意見を伝える機会がある。	ホーム長は、ユニット会議などで、いつでも職員と話し合う機会があり、職員の意見は本社の代表に伝えている。職員の意見や要望は運営に反映させるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務や研修の希望を自由に行える様、概ね整備されている。有給取得に向けて年間のスケジュールを作成し、均等に有休が取得できるようにしている。休憩室にて自由な休憩時間を持つ事により、英気を養い、生きがいを持って働ける環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一年間、テーマに沿って研修を行っている(本年は服薬支援について)また、スタッフの力量にあった内部研修を行っている。外部の研修に参加できる様、希望をとれる体制を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と職員の交流する機会を持っている。また、地域の同業者とは親睦会があり、ネットワークづくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談を中心に施設長や計画作成担当者がご本人様の希望や不安を伺う時間を持ち、信頼関係を深めるように努めている。入居後は笑顔で接し、安心できる雰囲気作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時に施設長や計画作成担当者が要望や不安について伺い、ホームで安心して生活できる様、環境を整えている。また、入居者様とご家族様が良好な関係を続けられる様に配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設長が中心となり、見学時の面談の際に必要な支援を見極め、提案させていただいている。その際は他の機関への案内も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と共にお仕事や行事を楽しむ体制である。畑作りや食事作りでは入居者様から教わる事もあり、暮らしを共にしている。重度の方でもできる事が、お礼を伝えている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の連絡や里の家便りを通じて様子を伝え、ご家族様が絆を感じられる様、支援している。行事等にご家族様をお誘いし、支援や会話の機会を設けている。来設の難しい方も電話できる環境を整えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事やドライブで馴染みの場所を訪れたり、ご家族様了承の上、お友達と会う事ができる様にしている。入居者様との会話から馴染みのお店等に行ける環境を整えている。	家族や友人がホームを訪問した折はゆっくり寛げるように配慮している。正月の帰省や墓参りを支援し、馴染みの店や思い出のある場所へ職員と共にドライブで出かけるなどしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士、お話やお仕事ができる環境を整えている。内気な方もおられるが、スタッフが橋渡しする事で、皆様と交流されている。入居者様同士、歩行のお手伝いをしようとされる時はスタッフ介入にてお手伝いいただく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も来訪されるご家族様もおられ、フォローできている。 入院にて退去された後も定期的にお見舞いし、相談を受け、再度申し込みできる環境を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様やご家族様のお話や表情から暮らしの意向の把握に努め、ご本人様らしい生活に近づける様にしている。意思表示の難しい方もスタッフ同士情報交換し、本人本位の生活ができる様にしている。	日常会話や表情から本人の希望を把握している。家族からも情報を得、職員間で共有をはかり、事業所独自の書式で、基本情報と介護への取り組みを記載しアセスメントに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	気軽にお話しできる人間関係を築き、ご本人様やご家族様、担当者様等から情報をいただいている。情報を基に、生き活きと生活できる事を理解している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様個人の一日の過ごし方やリズムを観察にて把握する様、努めている。行事やお手伝いを通じて心身の状況、持てる力を確認し、できる事の継続を目指す。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様の意向を介護計画に取り入れるため、お話する時間を設けている。会議等でアセスメントを行い、ご本人様の意見を反映し、ご本人様の代弁者としてプランを作成している。	本人、家族の意向を取り入れ、医師の助言も得て、職員全員でモニタリングを行い、3カ月毎に介護計画を作成している。看取りに入った時や退院時など状況が変化した場合は、そのつど作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個人に対して目標を設定し、計画が実施されているか記入している。入居者様の言動や表情を詳しく記録する事でご本人様像を共有し、プランの見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様やご本人様のニーズに対応する様努めている。個別の買物外食等、個別対応にも取り組んでいる。ご家族様より要望があった時は柔軟に対応できる様取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練では、地域や消防の協力をいただいている。日舞、ハーモニカ、フラダンス等、地域のボランティアも来設している。その他、ハロウィン、お祭り等では入居者様が楽しめる様に町内会と共働している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様やご本人様の希望に沿って受診できる環境を整えている。かかりつけ医もご家族様の納得の上、訪問診療を受けている。緊急時を含め、24時間の電話対応も行っている。	提携医の往診が定期的により24時間体制での連絡が可能である。本人希望の医療機関受診や他科受診の場合は家族と共に支援している。訪問看護師、職員が共に健康管理を行い、常に適切な医療が受けられる様支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度の訪問看護を受けている。訪問時は入居者様の変化を伝え、かかりつけ医への報告や細かなアドバイスもいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は治療後早期に退院できる様、看護師や地域連携室等と連絡を密に取っている。普段から、施設長を中心に病院関係者との関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアの経験は多く、対応する準備ができている。最終的にはご家族様、主治医との話し合いで決め、それに従い、全面的に協力している。訪問看護の協力も得られている。	入居時に重度化(ターミナルケア)に関する指針について本人家族に説明し、文書により了解を得ている。状況変化時は、家族、医師、職員が情報を共有し、医療連携のもと、家族の希望に沿い、看取りを実施している。看取りの経験は多く対応の準備はできている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備え、消防による救急救命講習を定期的実施している。毎月、事故やヒヤリハットについて話し合い、実践力を身に付けている。緊急時のマニュアルを整備している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	土砂崩れの危険のある個所の目視を行い、スタッフに周知している。備蓄品の管理を行い、災害時に不安のない様、努めている。町内会館、地域との協力体制を築いている。	年2回消防署指導のもと避難訓練を実施している。救命講習や消火器の扱いも体験し避難所や避難場所について家族に報せ、地域との協力体制を築いている。薬、衛生用品、食料、暖房器具など用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄支援等はプライバシーに配慮し、さりげない支援を心がけている。スタッフ同士注意し合える関係を築き、常に入居者様の人格を尊重する対応を行っている。	職員は利用者の人格を尊重して、言葉や動作に配慮し接遇マナーを守り、対応している。個人情報記載書類は取り扱いに注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に思いを表せる環境を整えている。自分の思いを伝える事が難しい方は表情や行動に気を配り、思いを酌む様に心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	受診や行事等で難しい事もあるが、ご本人様のペースを大切に、どのように過ごしたいか、希望に沿って支援する様、努めている。起床や就寝等は概ねご本人様のペースでされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の好みの衣類等を着けていただいている。選択が難しい時はご本人様らしい物を提供している。身だしなみはプライドに配慮し、都度、気を配っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューや食事作り、片付けに協力いただいている。男性にも時折、得意な作業中心に、おやつ作りをされている。野菜や果物を皆様で収穫し、すぐに提供、召し上がっている。	メニューには利用者の好みを取り入れている。菜園で育てた野菜や果物、市場の旬の食材を利用し、食事は美味しいと利用者から好評を得ている。利用者は下膳など手伝い、職員と同席して楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は毎日確認し、体重等と比較し、足りない場合は好みの物を提供している。ご本人様に合わせた食事提供を行うが、難しい場合はDrに相談し、栄養補助飲料を処方いただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様の力に合わせて声がけや支援にて口腔ケアを行っている。変化のある時は訪問歯科と連携し、対応している。レントゲン等の希望がある時は受診も行なう。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	表情や排泄パターンを共有し、自立に向けた支援を行っている。自力でトイレに行かれる方はプライドに配慮した支援を行っている。下着はご本人様に合う様、都度見直しを行っている。	排泄記録や表情から排泄パターンを把握し、それとなくトイレに誘導している。布パンツの方もいるが、パットなど個々に応じて適切に利用している。トイレでの排泄の自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘により落ち着かなくなる事や便秘の原因を個別に考え、水分摂取や食事の調整を行っている。体操やマッサージをして排便を促している。Drと連携し、下剤の調整も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人様のタイミングを考慮し、支援している。入浴時も体調を伺いながらご本人様のペースに合わせて支援している。できる限り、希望に合わせていつでも入浴できる様な環境を整えている。	本人の希望や体調、タイミングによりいつでも入浴できるように準備している。基本的には週2～3回入浴しているが、体調によりシャワー浴や清拭も行っている。浴室の安全、衛生に配慮し入浴が楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息はホールや食堂、居室にて自由に取っていただいている。夜間は個々のリズムに合わせて、就寝し、適時トイレ支援を行い、安眠できる様、努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による居宅療養管理指導があり、薬の情報をいつでも確認できる体制作りをしている。新たな薬がある時は申し送りノートにて全スタッフの周知を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活暦等を活用し、ご本人様に合ったお手伝いや楽しみ事を提供している。体操や外出、歌謡DVD観賞を中心に行い、笑顔が見れる様に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の希望に沿って短い時間でもお散歩やドライブに出られる環境を整えている。受診や希望時の買い物も実施している。また、ご家族様との外出もされており、気分転換となっている。お散歩では近所の方々と挨拶し、交流を図っている。	日常的には、園庭のベンチで寛いだり、畑作業、近隣散歩などで戸外に出ている。菜園で育てた野菜や果物の収穫は楽しみである。季節に応じて神社参り、花見や紅葉見物、外食など近郊へドライブに出かけ気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スタッフはご本人様がお金を持つ事の大切さを理解している。希望があれば、ご家族様了解の上、ご本人様で金を所持している。また、買い物時に支払いをしていただく場面もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は誰でも自由にできる体制を取っている。手紙を書かれる事は無いが、親類からの季節の葉書を楽しみにされている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は入居者様の動きに合わせ、都度環境整備を行い、混乱を招かない工夫をし、居心地よく過ごせるようにしている。不快な刺激がない様、音や明るさ、温度等にも気を配っている。お花や写真、季節のアイテムを飾り、季節を感じられる様に努めている。	居間は採光に恵まれ明るく、外の景色を眺め季節を感じる事ができる。利用者が詠んだ川柳短冊や樹皮で作成した絵画作品が飾られている。広い庭にはさくらんぼや葡萄、栗の木が植えられ、ベンチでゆっくり寛ぐことができる。室温、湿度は適切で騒音もなく居心地が良い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子を多くし、共用空間でも人目に付きづらい一人で過ごせる空間を作っている。気の合った仲間と自由にお話できる空間となっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室を居心地よく、混乱を招かない空間となる様、ご本人様、ご家族様と共に整備している。馴染みの物を中心に使用いただき、昔から大切にしている写真や飾り物を自由に眺められる様、工夫している。	居室には使い慣れた家具を置き、大切にしている家族の写真や趣味の作品を飾っている。クローゼットが広く整理整頓ができる。家族とも相談し、住み心地良いように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレを探す方にはご本人様がわかりやすいような目印を設置し、工夫を行っている。階段や廊下には手すりがあり、必要時は付き添いにて安全に移動できている。		